教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 泉 雄一郎
編集人 川原芳和
電話 050（3538）2346
1部15円 年定価360円（組合員の購読料は組合費の中に含む）

2017/1・15
No. 1921
2面

子どもたちの教育条件整備をめざして

・子どもの育ちを考えるシンポジウム

集まった署名を背景におこなった県教委に対する要請行動

「兵庫の教育をよくする県民署名」を提出

兵教組は、ゆたかな教育の創造をめざす兵庫県民会議（教育創造県民会議）とともに「兵庫の教育をよくする県民署名」にとりくみ、**261，785筆**（1月13日時点）の署名が集約された。

深刻な社会経済の中、家庭の経済状況も厳しく、「補助教材費」や「学校行事の積立金」、「給食費の捻出」等が困難な家庭、就学援助の必要な家庭が年を重ねごとに増加している。

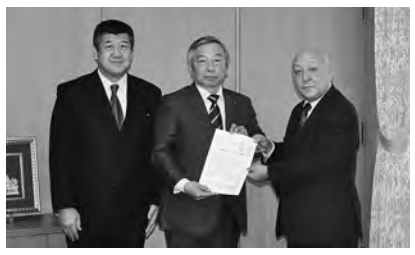
教育創造県民会議は、地域・家庭・学校が一体となって相互に連携し、「21世紀のゆたかな教育の創造」にむけ、地域の保護者・働くものの仲間たち・教職員・県民が連帯を深めながら、子どもたちの教育条件整備をめざしてとりくんでいる。

12月15日、集約した署名を提出し、県議会議長・県議会各会派・県教委に対して要請行動をおこなった。

また、16日には荒木副知事に要請書を提出し、少人数学級実現、子どもの貧困対策計画の策定、学校統廃合や義務教育学校について地域の声を十分に反映すること等を要請した。

荒木副知事からは、「みなさんには兵庫の教育にご尽力いただいていることに感謝を申し上げる。26万筆を超える思いを強く受け止め、第3次行革でも県民・職員のみなさんには厳しいお願いをしているが、教育に対してみんなで知恵を出し合い同じ思いでとりくんでいきたい」との回答があった。

※県教委からの回答詳細については各支部まで



要請書を受けとる荒木一聡副知事

兵庫の教育をよくするための要請書（要旨）

一　保護者の就労や所得に関わりなく教育を受けられるよう、OECD加盟国並みの水準を確保するよう国に要請するなど、教育の水準・機会均等を保障する教育予算を拡充すること。

二　阪神・淡路大震災および東日本大震災・熊本地震の検証をふまえた兵庫の防災（減災）教育の充実など予算措置をおこなうこと。

三　「人権教育基本方針」「兵庫県人権教育及び啓発に関する総合推進指針」「外国人児童生徒にかかわる教育指針」の具現化をはかるための予算を拡充すること。

四　すべての希望する生徒に高校教育を保障し、受験競争の緩和、多様な学びを可能にする魅力ある高校づくりをすすめるとともに、子どもの進路に関わる具体的な施策を推進すること。

五　学校の統廃合問題や義務教育学校については、地域住民の意見を十分に反映し、教育条件の低下を招かないよう慎重に検討するとともに、教職員定数の激減緩和措置を継続すること。

兵教組　2017年新春旗びらき

1月10日、兵教組新春旗びらきがラッセホールでおこなわれた。国会・県会・市議会議員、自治体首長、教育委員会、連合兵庫、労働組合や福祉団体・友好団体の代表者や学者・文化人等、およそ240人の参加があった。

▲貞松・浜田バレエ団によるオープニング

▶あいさつする泉執行委員長

オープニングでは、貞松・浜田バレエ団が「卒業記念舞踏会」を披露。晴れやかなドレスに身を包み、優雅な音楽に合わせて舞う姿に盛大な拍手が送られた。

主催者あいさつとして泉雄一郎執行委員長は、今年で兵教組結成70年、兵庫教育文化研究所設置40年を迎えることにふれ、「運動の成果を語り継ぎ、教職員の協力・協働によるこころの通いあう学校づくり、給与水準の向上、諸権利の拡充、教育文化・社会貢献事業の推進、国際交流の深化をめざす」とともに、「ひょうご教育フェスティバル等の研究成果をもとに、保護者や地域の方との社会的対話を、より一層すすめる」と述べた。

来賓を代表し、日教組の岡島真砂樹中央執行委員長代理、連合兵庫の辻芳治会長、井戸敏三兵庫県知事、玉田敏郎神戸市副市長、民進党兵庫県総支部連合会代表の井坂信彦衆議院議員から祝辞をいただいた。

きゅうしょく　大すき

豊岡市立資母小学校　一年　岡田　大和

ぼくは、きゅうしょくが大すき。
きょう、ポテトのチーズマヨやきがでたよ。
とってもおいしかったよ。
おいしくて、たまらなかったよ。
もう一かいたべたくて
どうしたらたべられるか、かんがえたよ。
そうだ。
きゅうしょくのおせわをしてくれるおばちゃんに、たのんだよ。
「きゅうしょくセンターのうんてんしゅさんに、もっともっとたべたいから、ポテトのチーズマヨやきを、だしてねといってください」と、たのんだよ。
がっこうに、えいようしさんからでんわがあったよ。
「また、だします」
やったあ。
えいようしさんも、うれしかったんだって。
ぼくもうれしいよ。
たのしみ、たのしみ。
いつかなあ。

（こどもの詩と絵　第36集より）

自動車共済 申込日の翌日から補償開始だから安心！

補償充実コースなら人身傷害補償付だからより安心

充実の割引制度

新車割引
エコカー・福祉車両割引
セカンドカー割引
組合員はじめて割引

ご契約例

排気量1500cc以下(Aクラス)／18等級／運転者35歳以上補償
上記の条件で**補償充実コースS型**をご契約いただくと

対人賠償：無制限	自損事故：人身傷害で補償
対物賠償：無制限	無共済等自動車傷害：2億円
人身傷害：5,000万円	搭乗者傷害:1,000万円
他車運転優先払特約、対物超過修理費用特約	

「新車割引」適用なら掛金10%OFFで

年掛金 26,240円 29,160円

ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書（契約概要・注意喚起情報）をご覧いただき、制度内容をご確認ください。

あんしん むすぶ
教職員共済

資料請求・お問い合わせは▶

教職員共済生活協同組合
兵庫県事業所

〒650-0004
神戸市中央区中山手通4丁目
10-8 ラッセホール4F

電話（078）221-9730
FAX（078）221-1199

承16-56-01（1606）

第66次兵庫県教育研究集会
ひょうご教育フェスティバル

子どもの育ちを考えるシンポジウム

子どもがゆたかに生きる　今、とりくめること　～学びの場の魅力づくり～

パネルディスカッション

昨年11月12日（土）から2日間開催された第66次兵庫県教育研究集会「ひょうご教育フェスティバル」で、記念事業「子どもの育ちを考えるシンポジウム」を開いた。

県教委義務教育課の木山正規さんによる基調提案『『兵庫県の不登校対策』～これまでの取組と今後の展望』では、「児童生徒理解・教育支援シート」の効果的な活用や、家庭と学校、関係機関との連携が重要であること等が提起された。

木山正規さん

続いておこなわれたパネルディスカッションの要旨を以下に掲載する。

まずは子どもとの信頼関係を

兵庫県立但馬やまびこの郷 副所長　村上裕樹さん

お母さん、とにかく校門のところまでお子さんを連れて来てください。あとは我々が対応しますから―。

そういうふうに学校の教職員に言われると、「学校に行かせられないだめな母親と思われているようで、学校に連絡するのも、連れていくのも非常に辛い」と数多くの保護者が話す。確かに、保護者には子どもに教育を受けさせる義務があると憲法にも書かれているが、これは学校に行かせる義務とまったく同義なのであろうか。

例えば、この保護者から「先生、子どもが安心して通える学校にまずはしてください。そうすれば、責任を持って学校に連れて行きますから」と言われたらどうか。戻れない原因が学校にある可能性も考える必要があるだろう。

子どもたちの学校復帰をめざす上で、「人間関係」は大きなキーワードになる。まず不登校の子どもたち自身に関心を持っていただきたい。子どもたちに聞くと、保護者からも教職員からも、「学校に行く」ということ以外の話題がないと話す。まずは、その子ども自身がどんなことに興味を持っていて、普段どんなことをしているのか。その子自身に関心を持って、思いを寄せていただけたらと考えている。

それから、教職員も勇気を持って自己開示をしてみてはどうか。どんなことが好きで、普段どんなことをしているのかという話ができれば、人間同士のつながりを感じられる子どもたちがたくさんいると思う。不登校という枠を外して一人の人間として向き合って欲しい。そんな思いで毎日過ごしているように思う。まずは、子どもたちとの信頼関係を築くことをスタートにしていただけたらと願う。

相談できる状況をつくる

**東京大志学園菅屋校 教室主任
クラーク記念国際高校教員兼任　南川華奈さん**

不登校にさせないためには、ソーシャルスキルとソーシャルサポートが大事だと考えている。つまり、子どもが困ったときに、困ったと言える状況をつくるということだ。困ったけれど、誰にも言えない。相談できる人がいないし、それを言う力がないから、子どもたちは困ったときに、「学校に行かない」という選択をとるのではないかと思う。

私が勤める東京大志学園では、不登校の子どもたちが学校に戻るために何をしたらいいのかということを考え、支援している。

学園に通っている子どもの中にも、学校復帰を果たす子どもと、果たせない子どもがいる。在籍校の教職員の対応という面で、何が違いを生んでいるか考えてみると、学校復帰を果たせる子どもの先生は適度に声をかけてくれる。毎回、毎日ではないが、時々いいタイミングで電話をくれる。

もう一つの違いは、無理をさせないこと。学校復帰をめざす子どもが、一度学校に行けても、「もうあの学校には行きたくない」と言って帰ってくる場合がある。それは、10分学校に居ることができたら、「もうちょっといけるだろう」と30分、1時間に延ばされたり、テストを1時間受けたら「もう1時間テストを受けないか」と言われたりするなど、約束と違う対応をされる。上手な教職員は無理をさせずに約束を守ってくれる。

経験的に、私が勤めているような私立のフリースクールにも連絡をくれる教職員が受け持っている子どもは、何らかの形で学校復帰を果たす。民間施設もチーム学校の一員として、学校の教職員と連携して不登校支援に貢献できればと考えている。

授業を通じて子どもと向き合う

**丹波市立氷上中学校
教諭　西山修さん**

不登校生が学校に行きたいなと思える学校づくりは、どのようにすれば良いのだろうか。今まで担任として多くの不登校生と関わり、いろんな活動をしてきたが、やはり私は授業でがんばりたい。子どもたちの心が本当に豊かになる授業をすすめるために、試行錯誤しながら指導案をつくって、いろんなとりくみを子どもたちとしてきた。

例えば、かつて時差登校をしてきたときに、「教科の勉強は嫌だけれど、総合だったらいい」と言う不登校生と一緒に調べ学習をしたことがあった。うれしそうな顔をして調べ学習をしていたことを覚えている。そのときには、村上先生も「自己開示」と言われたが、僕自身がどんな人間かも話せるし、いろんなやりとりの中で人間関係が築けていけたのではないかと思っている。

皆さんの現場も大変忙しい状況だと思う。例えるなら、降りることのできない飛行機のように感じている。燃料を入れる時間も全然なく、整備する時間もなく、ずっと飛び続けている状態。そんな中で、関係機関の方とどうつながったらいいのかとか、不登校生とどう関わっていけばいいのかということなどで困っているのではないだろうか。たくさんの校務分掌を持たざるを得ないような状況もあいまって、現場がうまく回らなくなると、それらのしわ寄せが全部子どもを追い込むような形で出てきているような気がしてならない。

魅力ある学校づくりのために、まず何ができるのか。授業を通じておこなうとりくみも含めて、職員室にいるみんなの一つ一つのとりくみが、不登校生を生まない、魅力のある学校につながっていくのではないかと思っている。

勝手に決めず、子どもに聞く

**武庫川女子大学
准教授　半羽利美佳さん**

スクールソーシャルワーカーとしてたくさんの不登校の子どもたちと出会ってきた。不登校のお子さんが10人いれば、10人のストーリーがある。決してマニュアルがつくれるものではないが、その中でもやはり同じようなことを耳にすることはある。

自分の担任が突然家庭訪問に来るのが嫌だったとか、毎日クラスメイトから学校のプリントが届けられるのがだんだんしんどくなってきたけれど、そんなことは言えないから居留守を使うようになったとか、2時間目に少しだけ学校に行くという約束をしたら、「せっかく来たんやから最後までおったら?」と言われて、結局断れず最後までいることになり、「また行きたい気もするけれど、行ったら同じことを言われそうだから行きにくい」といったようなことだ。

教職員のみなさんは、子どもたちのために一生懸命たくさんの労力と時間を使っている。それにもかかわらず、なぜこのようなことになるのだろうか。どれだけ教職員が一生懸命でも、子どもたちや保護者の方は、「いつも勝手に決められる」とか、「いつも約束を破られる」とか、「私の気持ちは何にもわかってない」といった気持ちを持っていることがある。

相談支援の専門職の間には、「ノット・ノーイング」という言葉がある。当事者のことは何もわからない、知っているのは当事者だという意味である。勝手に決めず、子どもや保護者に尋ねることが大切である。答えが返ってこないことがあっても、「あなたを主体に考えているんですよ」という気持ちが伝わることが重要だ。答えがないならないでいいよと言ってあげられる。そのようなことが大事になってくるだろう。

意見交流とまとめ

冨永良喜さん

各パネリストの提起の後、参加者と意見交流をおこなった。「子どもと教職員の思いのズレが不登校問題をより深刻なものにしている可能性があるということに、もっと自覚的でありたい」等の意見があった。

終わりに、コーディネーターの冨永良喜さん（兵庫教育大学教授）は、「人間関係づくりやストレス対処を学ぶ授業を積極的に提案することが、子どもが悩みを抱えたときの適切なかかわりにつながるのではないだろうか」とまとめた。

ほっこり鍋プラン

2016年12月1日(木)～
2017年2月28日(火)

利用人数 2名～
ランチ 11:00～14:00
ディナー 17:00～21:00

予約制
2日前までにご予約ください。

※ランチは2名様以上、ディナーは5名様以上からとなります。
※日・祝の営業は18：00までとなります。但し、団体様のご利用についてはご相談ください。
※年末・年始(12月29日～1月6日)のご利用は事前にご予約ください。

▌ラッセ鍋(寄せ鍋風、柚子胡椒)
造り二種・鍋・うどん又は雑炊

▌鰤しゃぶしゃぶ(ぽん酢)
造り二種・鍋・うどん又は雑炊

▌牛肉すき焼き(玉子)
造り二種・鍋(牛肉150g)・うどん又はご飯

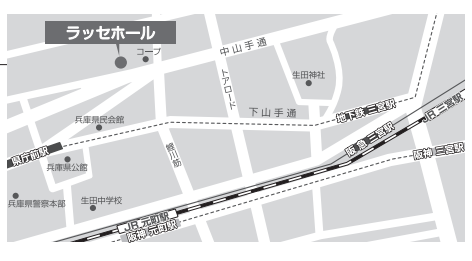
▌神戸ポークしゃぶしゃぶ(ぽん酢)
造り二種・鍋(ロース肉100g、バラ肉100g)・うどん又は雑炊

前売りチケット お一人様(税込)
¥3,500
通常 お一人様(税込) ¥3,900

★前売りチケットはレストラン又はフロントでご購入ください。
★チケットはレストランで金券としてもご利用頂けます。(有効期間 2017年2月28日迄)

フリードリンク(2時間制)
・ビール　・焼酎　・ウィスキーハイボール
・酎ハイ　・梅酒　・日本酒　・ウーロン茶
・オレンジジュース
お一人様 ¥1,500(税込)
※宴会場でのご利用の場合は、酎ハイ・梅酒は含まれません。

特典
前売チケットご購入で個室利用頂けます。
レストラン個室は4名様以上(ご予約先着順)
宴会場は20名様以上(ご予約先着順)

ご予約・お問い合わせはこちら　078－291－1110
お問い合わせ時間　平日・土　9:00～19:00　日・祝　9:00～18:00

ラッセホール
〒650-0004
兵庫県神戸市中央区中山手通4丁目10－8
TEL.078-291-1117(代表)
FAX.078-291-0333
https://www.lassehall.com
E-mail info@lassehall.com